

講師

長崎 恵美子

## ■ 学歴

---

1. 2016年 川崎医療福祉大学大学院医療福祉学研究科保健看護学専攻修士課程 修了

## ■ 学位

---

1. 2016年 修士（保健看護学）

## ■ 研究分野

---

1. 基礎看護学
- 2.
- 3.

## ■ 研究キーワード

---

1. 意思決定支援
2. 看護倫理
- 3.

## ■ 研究課題

---

1. 「心疾患をもつ高齢者のDNAR選択に対する看護師の意思決定支援」に関する研究で、看護師の困難感は明らかとなったため、看護師のニーズに合わせた教育コーチングの開発を進める。
2. 臨床看護師における倫理的問題と道徳的感性に関する研究

## ■ 担当授業科目

---

1. 看護技術論演習（前期） 必須
2. 看護過程論（前期） 必須
3. 診療関連技術論演習（前期） 必須
4. ヘルスアセスメント演習（後期） 必須
5. 生活援助技術論演習（後期） 必須
6. 基礎看護学実習Ⅰ（後期） 必須
7. 基礎看護学実習Ⅱ（前期） 必須
8. 総合演習（通年） 必須
9. 総合実習（通年） 必須
- 10.

## ■ 授業を行う上で工夫した事項

---

※ 助教・助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項

- |    |                |
|----|----------------|
| 1. | 授業科目名【看護技術論演習】 |
|----|----------------|

	<p>1 年次前期必修科目 1 単位で講義と演習形式で行っている。内容は、「看護技術概説」「感染予防技術 (スタンダードプリコーション)」「安全を守る技術 (ボディメカニクスとポジショニング)」「環境調整技術」「コミュニケーション」「記録・報告」について教授した。履修学年が 1 年生であることから、看護への動機づけを行うとともに、臨床での具体例を用いてわかりやすい説明を心掛けた。演習でも実際に技術を教授するため、動画の作成と活用、教員が実践しながら根拠や身体の使い方などのコツを具体的に説明するように心がけた。</p>
2.	<p><b>授業科目名【看護過程論】</b></p> <p>2 年次前期必修科目 2 単位で講義と演習形式で行っている。グループワークで、約 6 名/G で構成される 3 グループ 18 名を担当し、事例を基に一連の看護過程を展開するうえでの基本的な考え方や方法を教授した。この科目は、基礎看護学で一連のプロセスを学んだ後、各領域別実習でも共通の思考過程をたどるため、理解が深まり看護実践につなげることの楽しさを感じてもらう必要がある。そのため、学生の苦手意識を最小限にし、グループワークを通して多様な考えや意見を参考にできる学びと雰囲気づくりを心掛けた。個別指導の時間には、思考過程のポイントや情報の集め方などを紙面に起こし、補足説明を行って理解の助けとなるように対応した。</p>
3.	<p><b>授業科目名【診療関連技術論演習】</b></p> <p>2 年次前期必修科目 2 単位で講義と演習形式で行っている。学生が実際に対象者に技術を実施することはないが、侵襲や苦痛が大きい技術のため、倫理的配慮が重要な技術であることを演習指導で説明した。また、演習や実技試験の評価を通して、看護形態機能学の知識に基づいたアセスメントの考え方や既習の知識や技術を応用していくことを説明し、理解を深めるようにした。</p>
4.	<p><b>授業科目名【ヘルスアセスメント演習】</b></p> <p>1 年次後期必修科目 1 単位で講義と演習形式で行っている。内容は、ヘルスアセスメントの意義と「生きている」ことをアセスメントするうえで必要となる「循環器系」「呼吸器系」「消化器系」、「生きていく」ことをアセスメントするうえで必要となる「感覚器系」「中枢神経系」「筋・骨格器系」のフィジカルアセスメントについて教授した。看護形態機能学の知識に基づいたアセスメントの考え方は必須であるため、自己学習を通して知識の定着を図った。特に看護技術の要となるバイタルサイン測定については、聴診器・アネロイド血圧計を購入してもらい、実技試験項目として演習で具体的に説明し、理解を深めるように心掛けた。正確な技術が必要であるため、全体に改善する内容についてもフィードバックした。</p>
5.	<p><b>授業科目名【生活援助技術論演習】</b></p> <p>1 年次後期必修科目 2 単位で講義と演習形式で行っている。内容は、「活動と休息」「清潔」「食事」「排泄」について教授した。自分の日常生活行動を今一度考えながら、病や障害をもち日常生活行動に制限が生じている対象に安全・安楽・自立・倫理的配慮をふまえた援助方法について考え、基本的な技術を実践する。その際に必要な考え方、原理・原則を守りながら個別性を生かした方法について、学生自身が気づけるような関わりを心掛けた。</p>
6.	<p><b>授業科目名【基礎看護学実習 I】</b></p> <p>2 年次後期必修科目 1 単位の演習形式で行っている。初めて患者を受け持ち、患者や実習指導者とのコミュニケーションを通して、患者との関係構築と生活上のニーズの充足を目指す援助について考え、実施する。学生は、初めての環境の中で緊張が大きいいため、身体面や心理的を細やかに見ながら、実習指導者と連携を図りながら、受け持ち患者に考えた援助の実施と評価が行えるように支援した。</p>

7.	<p>授業科目名【基礎看護学実習Ⅱ】</p> <p>2年次前期必修科目2単位の实習形式で行っている。患者を受け持ち、初めての看護過程の展開と看護実践の一連の過程を行う。学生は、初めての長期実習となるため、緊張や体調管理などに注意を払う必要がある。そのため、患者や実習指導者とのコミュニケーション、記録を通して情報の集め方や整理、看護問題の方向性、看護実践の内容について助言や指導を行い、学生の看護実践を見守り、達成感を得られるように支援した。</p>
8.	<p>授業科目名【看護総合演習】</p> <p>4年次前期・後期必修科目2単位の演習形式で行っている。ゼミ生6名に対して、看護総合実習に向けて、文献検索、文献を用いた抄読会を実施し、得た知識を生かして実習計画が立案できるように指導を行った。実習後は自分で学習した知識と実習の体験の結びつきから学びを深めてレポートにまとめることをサポートした。最終学年であり、次年度は看護師として働く社会人を意識した自主性や国家試験対策についても支援した。</p>
9.	<p>授業科目名【看護総合実習】</p> <p>4年次前期・後期必修科目2単位の实習形式で行っている。ゼミ生6名それぞれが看護総合演習で立案した実習計画を基に、病院での実習を行う。学生が自ら実習の中で看護師と調整したり、多職種との連携とそこでの看護師の役割、優先順位の判断、リーダーの役割など次年度から生かせる学びの機会となるよう目的意識を持って自ら学ぶ実習にするよう支援した。</p>

## ■ 学会における活動

	加入時期	所属学会等の名称	役職名等（任期）
1.	2014年4月～現在に至る	日本看護協会会員	
2.	2014年12月～現在に至る	Sigma Theta Tau International 会員	
3.	2015年12月～現在に至る	日本看護研究学会会員	
4.	2016年2月～現在に至る	日本看護倫理学会会員	
5.	2017年4月～現在に至る	日本看護診断学会	
6.	2022年6月～現在に至る	日本看護科学学会会員	

## ■ 研究業績等に関する事項（2023年度）

	発行又は 発表の年月	著書、学術論 文等の名称	単著・ 共著の別	発行所、発表雑 誌等又は発表学 会等の名称	概 要
（著書）					
1.	2023.11	プチナース 別冊付録 周術期標準 看護計画	共著	照林社	① 看護学生が周術期の患者によく挙げる9つの術後合併症の看護計画の中から、「転倒・転落の予防」について解説した。発達段階に応じたリスク要因や術前後の看護計画立案の視点について説明し、個別性のある看護計画を O-P、C-P、

					<p>E-P に具体的に記述した。</p> <p>② 監修者名：伊東美佐江 共著者名：長崎恵美子, 伊東美佐江, 他 11 名</p> <p>③ 担当部分： 転倒・転落の予防 (P26～28) 総頁数：P35</p> <p>④ B5 判</p>
2.					
3.					
<b>(学術論文)</b>					
1.					
2.					
3.					
<b>(翻訳)</b>					
1.					
2.					
3.					
<b>(学会発表)</b>					
1.	2023. 7	ACP 実践における意思決定支援のタイミングに関する研究動向	共	第 29 回日本看護診断学会学術大会 (於 アクロス福岡)	<p>① 医学中央雑誌を用いて検索した 19 文献から、ACP 実践での意思決定支援のタイミングに関する分析を行った。多くは人生の最終段階における実践で、呼吸・循環器系、婦人科や進行がん罹患した患者を対象とし、デスエデュケーションの実際や認識に関する研究であった。</p> <p>② 共同発表者名：小野聡子, 紙谷恵子, 長崎恵美子, 那須明美, 松本啓子, 伊東美佐江</p> <p>③ 第 29 回 日本看護診断学会抄録集 P55</p>
2.	2023. 12	心疾患をもつ高齢者のエンドオブライフの治療選択にかかわる看護師の困難感	共	第 43 回日本看護科学学会学術集会 (於：海峡メッセ下関)	<p>① 看護師 10 名に心疾患をもつ高齢者のエンドオブライフの治療選択にかかわる看護師の困難感について、半構成的面接法で調査した。結果は 8 カテゴリーが抽出され、かかわりへのスキル不足や医師との関係性、意向の不一致、確認のタイミングの困難を感じていた。</p> <p>② 長崎恵美子, 森山美香, 小野聡子,</p>

					濱松恵子, 伊東美佐江 ③ 第 43 回 日本看護科学学会プログラム集 P92
3.					

## ■ 外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究				
	研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
1.	非がん性慢性呼吸器疾患患者の呼吸管理選択に関する支援ツールの開発と検証		(○小野聡子) (伊東美佐江) 長崎恵美子	2,320,000
2.				
3.				

(2) 個人研究				
	研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考
1.				
2.				
3.				

## ■ 社会における活動

	任期 期間等	団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等
1.			
2.			
3.			

## ■ 学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

	任期 期間等	会議・委員会等の名称 (内容)	役職名等
1.	2023年4月～2024年3月	学生個人情報保護委員	
2.	2023年4月～2024年3月	1年生アドバイザー	
3.	2023年4月～2024年3月	社会人基礎力向上ワーキング	